酒井貞さんの想い出

金山正吾

大変かけがえのない人を、ＣＶＶは失いました。
４年余り前に藤澤政夫さんが亡くなられて以来のショックです。　昨年の暮の悲報でした。
私が酒井貞さんと初めて出会ったのは、そんなに古いことではありません。1999年１月末のＣＶＶ発足会のことですから、まだ１０年になりません。　発足後も、酒井さんは専ら「まちづくりグループ」、私は「アドバイスグループ」に属しての活動でしたから、顔を合わせる機会も多くなく、それほど深いお付き合いとは言えないでしょう。　が、その割には印象に残るものが多いのです。

ＣＶＶ発足初期の頃、神戸市主催の“花フェスタこうべ”イベントで「橋の模型組立て」体験のお手伝いをすることになりました。　その支援スタッフが予行練習をしようということになりましたが、その練習日を決めるのにみんなの都合がうまく一致しません。　困ったあげくに、酒井さんの主宰する「まちづくりグループ会合」の日程を変更してもらったら兼ね合ってる人が練習に参加できるので、何とかなりませんかと軽い気持ちで提案した。　その私の発言が酒井さんご一党を甚く刺激したらしく、それ以来「金山ケシカラン！」という固定観念が継承され続けているような気がします。　言い換えれば、ウマが合わないという類でしょう。

話を変えますが、まちづくりグループリーダーとして纏められた「栗東駅周辺新都市計画、事業化コンペ提案書」や「大阪駅北ヤードコンペ提案書」の表現には、さすが“計画コンサルタント”の大ベテランだ、と感服させるものがあります。
また、ＣＶＶホームページの「ギャラリー」に見るようにスケッチを嗜み、一方で京都大学合唱団（名称？）とは今も関係ある活動をされていたそうです。
大阪大学創立何十周年かの記念イベントで、コンサートの切符が手に入らず困っていたところ、「僕は招待券をもらったが、大フィル・コーラスメンバーとして入場するから、この券あげるよ」と言われて、ありがたく頂戴したことがあります。

良きことも悪きこともいろいろありましたが、今となっては何もかも想い出深いものがあります。　ご冥福を、心よりお祈りいたします。　（2008-4-22）